



令和5年度羽田中学校だより

# 天空の橋

令和6年3月25日

目指す生徒像・・・

**H**ear

**N**ever Give Up

**D**o Our Best

大田区立羽田中学校

## 式辞

柔らかな春の陽ざしに包まれたこの佳き日、卒業式を迎えた第七十六期卒業生のみなさん、そして、保護者の皆様、本日はご卒業誠にありがとうございます。

思えば、三年前、皆さんはコロナ感染症による行動制限のまっただ中に入学してきました。そして、学年が進み、少しずつ行動の制限がなくなるとつれ、皆さんの本来の元気がどんどん発揮されていくことを感じていました。そして、今日、完全に制限が解除され多くの人たちに祝福されて卒業できます。私には、皆さんのエネルギーが、閉ざされた学校生活を切り拓いていったように思えてなりません。

中学校卒業後も、自らの力で、自分の人生を切り拓いていくことを切望します。さて、皆さんが社会の中心となって活躍する頃、どのような社会になっているのでしょうか。きっと、ひかれたレールがある社会ではなく、今以上に、自分で道を切り開いていかなければならない社会になっているはずです。することが決まっているような仕事は、AI・コンピュータがやってくれます。人間には、AIができないような創造的な仕事が求められる社会です。

卒業を迎えるに当たり、そういった創造的な社会で生きるために必要と、私が感じることをお話しします。まず、大事なことは自分の「好き」を究めることです。「好き」なことは、何でもよいのです。バスケットボール、サッカー、バドミントンなどの運動。美術や音楽などの文化的活動。学校に関わらなくても、eスポーツ、読書、料理など自分が興味をもち、楽しんで集中できる「好き」な活動でもよいと思います。この「好き」を中途半端ではなく究めてほしいです。少なくとも、そのことをしていない人には絶対負けないレベルまでにはなりたいというのが一つめです。「究める」ためには、人から言われたことだけを練習するのでは足りません。上達するために、自分からどうしたらよいかを調べ、考え、自分で研究することが必要です。これは勉強と同じ頭の使い方になりますが、「好き」なものならば苦にならないはずです。「好き」を追究することで、これからの社会に必要な「創造的に頭を使うこと」を身につけること。それが皆さんの人生にとって大きな武器となるはずです。二つ目は、他人の「好き」を面白がるようになることです。自分が「好き」を追求するのと同じように、他の人も「好き」を追求しています。他人の「好き」を面白がるようになると、自分の世界が広がります。自分の「好き」をより深く、より広く、追究できるようになります。今までの自分と違う視点で見ること

ができるようになるからです。また、他人の「好き」を尊重すると、自分の「好き」を他の人も尊重してくれるようになります。楽しく人とつながり、楽しく生きていけるようになるのです。ぜひ、他人の「好き」に関心をもって聞けるようになってください。三つ目は、自分の「好き」で人を幸せにすることを考えることです。「好き」を究めていっても、残念ながらそのことで全員がTOPにはなれません。TOPは、一人しかできないからです。そのことで食べていけるようになる人はそんなに多くはないと思います。向上を目指していても、ほとんどの人が、どこかで壁にぶつかるのが現実です。壁にぶつかったときに、その「好き」をやめてしまうのではなく、「好き」を活かして生きていく方法を考えます。スポーツをやっている人は、後進を育てるコーチになってもよいでしょう。トレーナーになることを考えてもよいかもしれません。そのスポーツを広げる活動をしたり、チームを強くする方法を考え広める研究に進む道もあります。ゲームが好きな人が、新しいゲームを考える方向に進んだり、プログラミングを学び、課題解決の専門家に進むこともあります。どのように自分の世界を広げるかは、自分次第ですが、そのときに羅針盤となるのは、何をしたら、「他の人のためになるか」「喜んでもらえるか」「幸せにできるか」ということです。それは、社会に貢献し、社会をつくっていくことにつながるだけでなく、自分の存在に意味がもてる、生きていく意味をもつことにつながります。また、お金を稼ぎ生きていく手段とするためにも重要なこととなります。

中学校生活が終わろうとしています。今日までの9年間の義務教育で皆さんは何を学んだでしょうか。もちろん、生活のために必要な読み書きも学びました。また、考えるための基盤となる多くの教科の知識を学び、考える力も身につけてきました。しかし、それだけではなく、委員会活動や係活動、学校行事や部活動、学校での多くの活動をとおして、自分の得意・不得意、そして「好き」が見えてきたのではないのでしょうか。学校での活動がすべて「好き」ではなくてもよいのです。不得意や苦手が見えてくるからこそ、自分の「好き」も見えてきます。そして、その見えてきた「好き」こそが、これからの皆さんの人生を支え、切り拓いていきます。さらに、皆さんは、学校生活の中で、みんなのために活動し、みんなに喜んでもらう充実感を体験しているはずで、自分が楽しく工夫しながら活動し、周囲もそれに巻き込み楽しくしていく。運動会、修学旅行、合唱コンクール・・・、皆さんのそんな場面をたくさん見させてもらいました。仲間と、お互いに、励まし合い楽しみながら、自分を高めていく、それができる素晴らしい集団だったと思います。それは、これから生きていく上でとても大きなことだったのです。中学校での学びや経験を基盤に、これからの社会の中で活躍してくれることを期待しています。これまで、皆さんは多くの方に見守られ、サポートされて生活してきました。お世話になった方々に感謝するとともに、これからは羽田中学校を支えてくれる側、地域を支える側になってくれるとうれしく思います。

最後になりましたが、保護者の皆様、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。この三年間、至らぬ点やご心配をおかけしたことも多々あったことかとは存じますが、保護者の皆様からは、本校の教育活動や教職員に対して、多くのご理解やご支援・ご協力を賜りました。この場をお借りして、深く感謝し、お礼を申し上げます。誠にありがとうございました。結びに第七十六期生五十五名の卒業生一人一人の輝かしい未来への旅立ちを祝して、式辞といたします。